人権・同和教育シリーズ231

【問い合わせ先】人権啓発・男女共同参画推進課 ☎0968(25)7209

あいさつから生まれる人とのつながり

地域人権教育指導員　**宮川淳一**

毎朝、自宅の近くで自転車で通う大勢の外国からの技能実習生とすれ違います。一度に20数人とすれ違うこともしばしばです。初めのうちは、「おはようございます」「こんにちは」とあいさつしても、自転車に乗ったまま通り過ぎたり、こちらをチラッと見るだけの日々でした。

たとえ言葉は通じなくても、あいさつくらいは分かり合えるだろうと、私は何回も、何十回も続けました。そのうち、あいさつが返ってくるようになりました。特に、愛犬と散歩の時や地域の小学生の登校の見守りの時には笑顔で返してくれる人もいます。多分、ペットや幼い子どもが一緒だと、彼女らも安心感に包まれるからなのでしょう。

私は、「あいさつぐらいはしたいなぁ」と思う性格なので、せっかく同じ地域に住んでいるならば、あいさつを交わさない方がストレスになると思っているのです。

初めて会った人とあいさつをする、初めて会った人と握手でお互いの存在を認め合う。このことは、生まれた国が違っても、お互いが近づくための大事な一歩だと思えるからです。

あいさつは、たとえ親しい間がらでも必要だと思いますし、知らない人なら、なおさら人と人とのつながりには欠かせないものだと強く思います。

あいさつする自分をもっと好きになる

以前、勤務した学校でのことです。人権教育を進めていくうえで大切なことや大事にしたいことなどが、たくさんあります。その中で、地域の人を学校に招いて、ゲストティーチャーとして話をしてもらったり、交流をしたりしながら、地域のことをもっと知って、地域を大事にし、自分も友だちも大切にしようという学習の機会がありました。

そのゲストティーチャーの人は、次のような切り口で子どもたちに迫られていきました。

「みんなは、自分のことが好きね？　嫌いね？」子どもたちが首をかしげていると、すかさずこう言われました。

「学校に行くときや帰るときに会う近所のおじちゃんやおばちゃんにあいさつする自分は好きね？　嫌いね？」「おばちゃんは、元気よくあいさつするあんたたちはとってもいいよ。いい？　自分を好きになんと、友だちもお母さんたちも、みんな好きになれんとよ。自分をもっと好きになって、周りのみんなを大切にしてね。そして、おかしいときには、おかしいと言える関係を作ってほしいと言って話を進めていかたい」れました。

あいさつは、単なる儀礼だけでなく、人とつながっていくうえで、とても欠かせないものだといえるのです。

農業委員会だより

【問い合わせ先】農業委員会 ☎0968(25)7235

令和7年4月から農地の貸し借り・売買方法が変わります

●「農地中間管理事業」に統合

国の法改正により、「農業経営基盤強化促進法に基づく利用権設定(相対事業)」が廃止となり、農地中間管理事業に統合されます。農地法による手続きは引き続き可能です。

●貸し借りの希望の場合は早めに申請を

受け付けは、これまでと同じ農業委員会ですが、これまでと比べ手続きに時間がかかるため、貸し借りの希望時期がある場合は、早めに申請をお願いします。

●契約の最終受け付けは令和7年1月24日㈮まで

利用権設定による契約の最終受け付けは、令和7年1月24日㈮までとなりますのでご注意ください。

事業廃止前に締結した契約は、設定した契約期間満了日まで有効です。

令和7年3月末まで

①農地中間管理事業
②農業経営基盤強化促進法に基づく利用権設定
③農地法第3条

統合

令和7年4月1日～

❶農地中間管理事業
❷農地法第3条

◆絵画連作◆ 幻の都 城下町菊池

絵・文／橋本以蔵

第三章 菊池五山 ～菊池氏の信仰～

手水山南福寺　【場所】下出田

この寺は他の寺と同様、やはり小さくなっていますが、出田地区に現存し、戦後まで住職がおられたそうですが、今は無住の寺となっています。付近に五輪塔の残欠が散在しています。出田地区の領主出田氏や城氏の菩提を弔うためのものでしょうか。

◆シリーズ◆ 南北朝・菊池一族歴史街道⑯

【問い合わせ先】観光振興課 ☎0968(25)7223

◆取り追う祭り

佐賀県伊万里市で、菊池一族ゆかりと伝わる祭りが行われています。一里町大里地区にある神原八幡宮で、毎年12月の最初の「卯の日」の前夜に開催される「取り追う祭り」です。今年の開催日は、12月4日㈬です。

神社の社記によると、「南北朝時代、菊池一族13代当主武重が戦傷を負い、この地に身を隠し神原八幡宮の神官となって再起を図った。その時に行った火中訓練が取り追う祭りの起源である。(意訳)」とされています。

御供さんと呼ぶ握り飯が入ったテボ(竹製のカゴ)を、攻め手と守り手で取り合うことが、祭りの語源といわれます。

会所といわれる家で、神社そばの神聖な水で調理した新米を使い、息が掛からぬよう榊の葉をくわえた男たちの手で、御供さんは握られます。その数は833個と決まっていて、武重勢と北朝勢の戦いの時の戦死者数と伝わります。

辺りが暗くなる午後5時ごろから、大きな松明を抱えた氏子の村衆が神社の参道を練り歩き、いよいよ祭りの開始です。

祭りの最大の見せ場は、御供さんの奪い合い。「打ーちゃえんかー」と叫びながら、炎びせられる火の粉を榊の葉を使って振り払い、テボを奪おうとする攻め手。対する守り手は「押ーしゃえんかー」と叫びながら大きな松明を振り回し、火の粉を浴びせてテボを守ります。約20分の攻防戦の後、攻め手がテボの蓋を開けて合戦終了。

最後に、御供さんが氏子や見物者に配られます。神聖な御供さんを口にすることで、その年の豊作や健康長寿に感謝し、取り追う祭りは終わりを迎えます。

菊池市から約100㌔も離れた伊万里の地で、菊池一族にまつわる伝統行事が、地域の人々の手によって大切に続けられています。

取り追う祭り

地域おこし協力隊通信

住民ワークショップに参加中 地域の特産品もイベントなどでPR

vol.75 ‖ 集落魅力化コーディネーター
花牟禮 美月さん

インスタグラム始めました!

■集落点検事業

市と熊本県立大学が連携し進めている集落点検事業において、岩本区と稗方区で住民ワークショップが始まりました。集落点検事業とは、住民自らがコミュニティの現状や課題を把握し、課題解決に向けた計画作りや実践につなげようとする事業です。私も地域の魅力や課題を知るために参加しています。

進行役も兼ねて参加中!

大きな地図を広げ、シールを貼ったり、意見を付箋に書いて、「見える化」したりすることで、一つの課題に対してたくさんの意見が飛び交います。住民の皆さんと直接意見を交わすことで、私自身も新たな発見や気付きがありました。地域を知るという意味でも、さらに多くの地域でワークショップができたらいいなと思っています。

■クリの季節

菊池佐野区で9月から始まったクリの収穫をお手伝いしました。菊池佐野区では、高齢化や後継者不足、耕作放棄地の増加などに歯止めをかけるため、農業法人を立ち上げています。

収穫したクリは、冷凍剥き栗「さのまろん」として、ふるさと納税の返礼品にも登録されています。イベントに出店することもあるため、一緒にポスターや法被の作成も行いました。さらに菊池佐野区が盛り上がるように、協力隊として地域の魅力を発信していきたいです。

【問い合わせ先】地域振興課 ☎0968(25)7250